



2005年10月16日(日) 東海道を歩きました。これまでの4回で、興津から三島までやってきましたが、今回は、興津の先、丸子から宇津ノ谷峠を歩くことにしました。町田から小田急線で小田原に行き、小田原から東海道本線で静岡まで出ます。静岡からバスで丸子に到着。目の前にあるとろろ汁で有名な「丁子屋」でちょっと早いお昼ご飯を食べて出発します。小雨のぱらつく中、昔の風情が残る東海道を歩いて行くと、道幅の広い国道1号線(静清バイパス)にぶつかりました。ここが、二軒家で、本来ここからバイパスの脇の道を進まなくてはいけなかったのですが、昔の雰囲気が残る細い道を直進してしまいました。間違えに気づき、戻りますが約40分のタイムロス。そこで、二軒家から宇津ノ谷入口までバスで移動して、宇津ノ谷峠にある明治のトンネルを目指して歩きます。いつもなら観光客で賑わう宇津ノ谷の集落ですが、生憎の天気で歩いているのは私たちだけでした。小さなかわいい「明治のトンネル」を通り、宇津ノ谷峠を越えます。丸子と宇津ノ谷は、ゆっくり時間が流れていました。



名物とろろ汁で腹ごなし

7時30分、小田急線町田駅に集まったのは、小野勝彦さん、加藤忠さん、純代さん夫妻、宮部忠和さん、香与子さん夫妻、横山和明さん、町田行弘、そして新人向山三郎さんの8名。向山さんは、前回の佐藤さん同様、加藤さんが職場で知り合った方です。台風が近づいていて天気心配でしたが、予報によると、静岡地方は曇りで雨はほとんど降らないということ。いつもの(東海道を歩きに行く時は)7時37分の急行に乗り、小田原で東海道本線に乗り換えます。熱海・沼津で乗り継いで、静岡に着いたのが10時23分でした。10時34分のバスで丸子橋入口に10時55分到着。早速、バス停からすぐの“丁子屋”に向かいます。



東海道五十三次“鞠子”の絵そっくりのわらぶき屋根の店の前にはすでに人が並んでいて、私たちもそれに従います。11時に開店して店に入ると、奥行きの広さに驚かされます。8名ということで、奥の大広間に案内されました。注文したのは、名



物とろろ汁と麦飯がセットになった“丸子定食”。おひつに入った麦飯を茶碗によそっていると、みんなでここに宿泊して朝食を食べているような錯覚に陥ります。店を出る頃には、すでに満員状態、活気のある観光地なんだなぁと思ったのですが…。

ああ勘違い

11時45分、歩き始めます。店を出て右へ行くと、国道1号線を渡って“駿府匠宿”へ、正面斜めの道が“旧東海道”で同じく国道1号線“二軒家”を経て宇津ノ谷峠へ向かう道です。間違えは、ここで始まりました。丸子宿を散策するのでしたら、“駿府匠宿”方面に出て、丸子城跡を経て二軒家に向かうのです。ところが、“旧東海道、宇津ノ谷峠”が頭の中に広がっていたため、丸子宿をショートカットするような“旧東海道”を歩き始めたのです。そして、約15分、国道1号線の二軒家に到着し、なぜか何の迷いもなく、国道を渡り、細い田舎道を直進してしまいました。“丸子路”“大釜へようこそ”などの案内板があり、ここを丸子宿散策路と勘違いしたのです。





というのも、町田は15年前、妻の麻樹と今回のコースを歩いたことがあるのです。その時の記憶に頼ってしまい、あまり地図を確認しなかったのと、国道1号線がハイウェイのようなバイパスに変わってしまい、散策路を分断してしまったため、感覚が狂ってしまったのです。細い田舎道の先には、“大鈴不動尊”があり、縁日には、朝市が開かれるということです。

タイムロス、そして、雨

さて、そうとは気づかず、どんどん寂しくなる田舎道を歩き、廃墟となった店跡や、なんとか営業しているとしか思えないお店を見て、“なんとも寂れてしまったなあ”などと思ったのです。が、“どうもおかしいぞ”と営業しているお店で道を尋ねて、見当違いの道を歩いていることがわかったのです。ショック！そういえば、二軒家から歩き始めてしばらくしたところに、“丸子の里自然歩道”入口があったのです。入ろうとしてこれでは戻ってしまうと止めたのですが、本来、ここに出てきて、二軒家に向かうのです。あ～あ、雨は降ってくるし、道を間違えてタイムロスするし…。約40分のロスタイムを取り戻すため、二軒家から宇津ノ谷入口までバスで移動することにしました。ここは、歩くと40分ですが、バスなら10分足らず、時間が取り戻せるのです。

宇津ノ谷入口に着いたのは、13時15分。国道の宇津ノ谷トンネルの手前を左から回り込んで、国道を上で越えて宇津ノ谷集落に入ります。



平安の道

国道を越える手前左に“薦の細道”の入口がありました。薦の細道は、平安時代からの古道で在原業平の“伊勢物語”に登場することで知られている道です。その後、豊臣秀吉が小田原征伐の際、宇津ノ谷峠への道を切り開き、江戸時代になると、宇津ノ谷峠越えの東海道が整備されました。こうして、薦の細道は廃道となり、どんどんと荒れ果てていったということです。現在の薦の細道は、昭和に入って整備されたものです。

雨で“開店休業”

宇津ノ谷の集落は、昔の東海道のイメージを保存すべく整備されて、家々には、屋号の看板が掲げられています。“御羽織屋”は、秀吉が小田原征伐の途中、休憩した茶屋で、その時の主人の対応が、戦勝に結びつくものだったという褒美に、帰りに与えられた陣羽織が展示されています。1人200円で中を見学させてくれるのですが、この日は、朝から(前日から?)雨のため、あまりに観光客が少なく(もしかしたら私たちぐらいかも)御羽織屋のおばあさんも商売っ気無し。「天気の良い日にゆっくりと」なんて言われてもネ。





明治の道

正面に現れた階段を上ると、舗装された遊歩道にぶつかりました。右は車で“大正のトンネル”、左が“明治のトンネル”で越える宇津ノ谷峠です。左折して遊歩道を進むと間もなく明治のトンネルが見えてきました。このトンネルは、明治9年に完成した日本初の有料トンネルで、赤レンガの内壁とランプの灯りがいい味を出しています。2001年の「八丁池」「踊子歩道」の旧天城トンネルを思い出します。どちらも、山の上の方に明治時代のトンネルがあり、下に現在の幹線道路のトンネルがあります。そして、山の上には、トンネルをくぐらない峠が存在するのです。



難所

明治のトンネルをゆっくりと歩き、反対側に出て旧東海道の標識に従って進みます。しばらく登ると分岐があり、右が“坂下・旧東海道（岡部）”左が“旧東海道（丸子）”となっています。もちろん、右へ行くのですが、左は、本当の宇津ノ谷峠を越える江戸時代の東海道ということです。それにしても、反対側の峠の入口はどこにあったんでしょう？平安時代の鶯の細道、江戸時代の宇津ノ谷峠、明治時代のトンネル、大正時代のトンネル、昭和のトンネル、さらにバイパスができたことで平成のトンネル。宇津ノ谷峠は、本当に人泣かせの難所だったんですね。右折して下り始めると、鶯の細道と合流します。辺りの案内板には、“大名街道”“参勤交代の道”とありました。参勤交代の大名もこの峠に泣かされたという証でしょう。

下り終えて、国道1号線の“坂下”というバス停からバスに乗って静岡駅に向かいました。





町田行弘	229-1103	神奈川県相模原市橋本 5-29-12 メゾン・アン・ソレイユ 201 042-773-7415
小野勝彦	194-0041	東京都町田市玉川学園 8-22-2 042-725-8403
加藤忠	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
加藤純代	194-0033	東京都町田市木曽町 651-1 市営 1-201 042-727-8949
宮部忠和	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
宮部香与子	192-0363	東京都八王子市別所 1-103-15 0426-78-0666
横山和明	195-0062	東京都町田市大蔵町 2181-4 042-735-5662
向山三郎	194-0204	東京都町田市小山田桜台 1-735-2 042-797-4329

